

BOE への過度な利上げ期待は後退

- ◆今週の BOE 会合で、政策金利の据え置きを決定
- ◆BOE への過度な利上げ期待は後退も、12 月利上げの可能性は残される
- ◆加ドル、BOC の利上げ時期を見極める

予想レンジ

ポンド円 151.50-156.50 円

加ドル円 90.00-93.50 円

11 月 8 日週の展望

ポンドは、今週のイングランド銀行 (BOE) 会合で金融政策の据え置きを決定したが、市場では利上げの可能性もかなり織り込んでいたこともあり急落した。BOE への過度な利上げ期待が後退し、12 月利上げの思惑も弱まっているものの、市場ではまだその可能性は残されている。ポンドの売りは一服しそうだ。

BOE は 7 対 2 で政策金利の据え置きを決定した。利上げを支持したのはラムズデン BOE 副総裁とサンダース MPC 委員の二人にとどまった。ベイリー-BOE 総裁が 10 月 17 日に「中銀はインフレ圧力を抑制するために行動する必要がある」と警鐘を鳴らしたことを受けて、市場では利上げ期待が急速に高まったが、同総裁は今回の会合では利上げを支持せず、一連の利上げで来年のうちに政策金利が 1%に達すると市場の見方に対し、「急激に利上げを行えばインフレ率が目標の 2%を下回る可能性がある」と警告した。BOE はインフレ率を目標水準に保つために「今後数カ月内」の利上げが必要だとの見解を示し、12 月にも利上げに踏み切る可能性は残されている。ただ、英国は EU 離脱の影響もあり、供給制約の影響を他の経済よりも受けやすい。コロナ感染再拡大のリスクも景気の先行きへの不透明感を高めており、過度に利上げを織り込むのは禁物だ。

今週の加ドルは買いが一巡したが、来週も底堅い動きが見込まれる。来週、加国内では主な経済指標や注目のイベントは予定されておらず、新規の手がかりは乏しいが、カナダ中銀 (BOC) のタカ派姿勢や原油の先高感が引き続き加ドルの下支えとなる。

今週の原油相場は原油在庫の増加などを手がかりに利益確定売りが優勢となったが、4 日の石油輸出国機構 (OPEC) 加盟・非加盟の主要産油国で構成する「OPEC プラス」閣僚会議では米国などの増産要求に応じず、日量 40 万バレルの生産引き上げ計画を維持することで合意した。需給改善が見込まれる春先まで原油高が続くとの見方は少なくない。

BOC は 10 月の会合で利上げ時期の見通しを 2022 年後半から半ばに前倒し、早ければ 4 月に利上げを実施する可能性を示唆した。2021 年の GDP 成長率は前年比+5.1%と前回 7 月時点の+6.0%から下方修正されたものの、来年も+4.3%の高い成長率を維持するとの見通しを示した。マックレム BOC 総裁は、経済状態が再びしっかりと成長し、量的緩和はもはや必要ないとの見解を示している。今後は利上げ時期が焦点となるが、市場では来年 1 月にも利上げに踏み切るとの見方が出ている。加消費者物価指数 (CPI) が 6 カ月連続で BOC インフレ目標上限を上回っている中、BOC は CPI が 22 年も目標レンジ上限を超え続けるとの見方に修正。インフレへの警戒感を強めている。

11 月 1 日週の回顧

ポンドは売り優勢。BOE が政策金利の据え置きを決定し、利上げを見込んだ向きも多かったこともあり、ポンドドルは 1.34 ドル後半、ポンド円は 153 円前半まで急落した。加ドルは原油相場の下落やリスクオフの円買い・ドル買いで上値の重い動きも下押しは限定的。ドル/加ドルは 1.24 加ドル後半、加ドル円は 91 円前半まで加ドル安となった。(了)